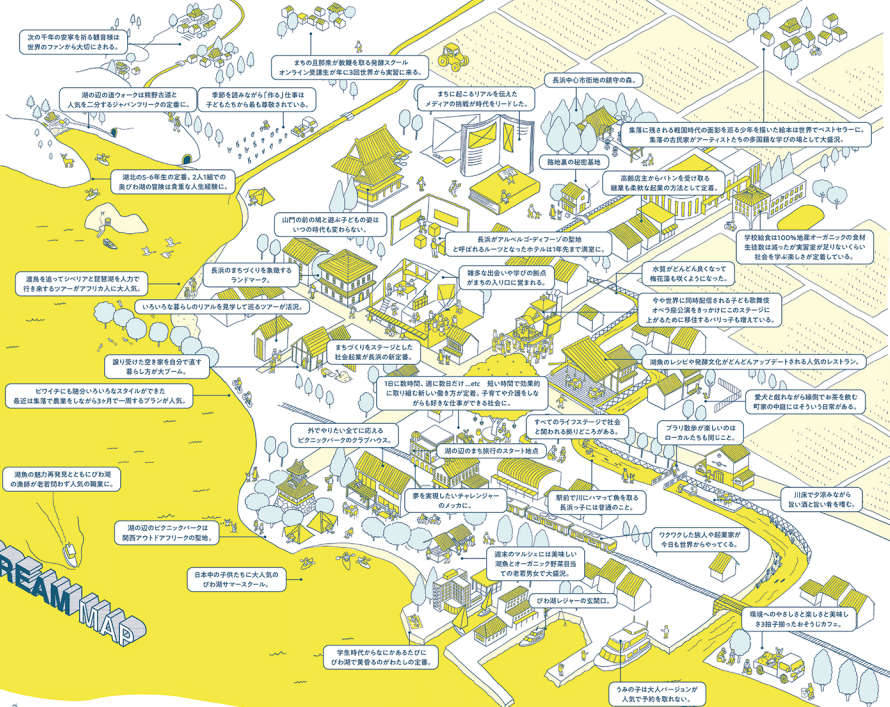


DREAM MAP

湖の辺のまち 長浜未来ビジョン



次の千年の宮家を知る観音様は世界のファンが大変にされる。

湖の辺の道ウォークは歴史古縁と人気を二分するジャンプフリの定番に。

湖北の5-6年生の定番、2人1組での美びわ湖の賞レースは貴重な人生経験に。

漁舟を造ってシラベアと琵琶湖を人力で行き来するツアアがアフリカ人に大人気。

いろいろな暮らしのリアルを見学して回るツアアが活況。

譲り受けた空き家を自分で直す暮らし方が大ブーム。

ビワイチにも関係ないようなスタイルができた最近では農業をしながら3ヶ月で一泊するプランが人気。

湖の魅力再発見とともにびわ湖の漁師が若者間で人気の職業に。

湖の辺のピクニックパークは関西アウトドアフリの聖地。

日本中の子供たちから大人気のびわ湖サマースクール。

学生時代からなにかあるたびにびわ湖で賞レースのがわした定番。

まちの且那由が教職を取る養護スクールオンライン英談生が年に3回世界から実習に来る。

山門の前のお庭と遊ぶ子どもの姿はいつの時代も変わらない。

長浜のまちづくりを象徴するランドマーク。

まちづくりをステージとした社会起業が興隆の軒並み。

まちづくりをステージとした社会起業が興隆の軒並み。

外でやりたいたい金でこぼるビズニクパークのサブハウス。

夢を実現したいチャレンジャーのメッカに。

週末のマルシェには美味しい湖魚とオーガニック野菜目当ての若者男女が大盛況。

びわ湖レジャーの玄関口。

学生時代からなにかあるたびにびわ湖で賞レースのがわした定番。

まち起こるリアルを低次元メディアの挑戦が時代をリードした。

長浜中心市街地の緑の森。

集落に残る戦国時代の面影を語る少年を招いた絵本は世界でベストセラーに。集落の古民家がアーティストたちの多国籍な学びの場として大盛況。

路地裏の秘密基地

高橋店主からバトンを受け取る継業も柔軟な継業の方法として定着。

長浜がアルベルゴディフーズの聖地と呼ばれるルーツとなったホテルは1年先まで満室に。

雑多な出会いや学びの拠点がまちの入り口に置かれる。

水質がどんどん良くなって梅花漁も戻るようになった。

今や世界に同時配信される子どもと動物愛おへら展公演をきっかけにこのステージに上がるために移住するパリッソも増えている。

学校給食は100%地産オーガニックの食材生徒数は減ったが実習生が足りないくらい社会を学ぶ楽しさが定着している。

湖魚のレシビや発酵文化がどんどんアップデートされる人気のレストラン。

愛犬と戯れながら緑地でお茶を飲む町家の中庭にはそういう自然がある。

すべてのライフステージで社会と関わる拠点がところがある。

プラリ数が多いのはローカルなことも同じこと。

駅前で川にハマって魚を取る長浜っ子には普通のこと。

川床で夕涼みながら鯉い漁と鯉い魚を堪能。

ワクワクした旅人の起業家が今日も世界からやってくる。

環境へのやさしさと楽しさと美味しさ3拍子揃ったおそうじカフェ。

うみの子は大人バリエーションが人気で予約が取れない。